

「サイエンスアゴラ 2016」の開催について

1. 主 催： 国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）、日本学術会議
2. 共 催： 国立研究開発法人産業技術総合研究所、東京都立産業技術研究センター、日本学生支援機構、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ
3. 後 援： 内閣府、外務省、文部科学省（申請予定）、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、国立研究開発法人理化学研究所、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人海洋研究開発機構、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、一般社団法人東京臨海副都心まちづくり協議会、一般社団法人日本経済団体連合会、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、日本科学技術ジャーナリスト会議、一般社団法人日本サイエンスコミュニケーション協会、公益社団法人応用物理学会、公益社団法人日本化学会
4. 日 時：平成 28 年 11 月 3 日（木）～11 月 6 日（日）
5. 場 所：日本科学未来館
6. 委員会等の開催：開催予定あり
7. 開催趣旨：

研究者・専門家と社会の様々なステークホルダー（市民、メディア、産業界、行政・政治）との対話の場、科学技術と社会の関係性についてのあらゆる「科学コミュニケーション」を深化させる場、科学コミュニケーションを通して、本当に社会に役立つ知恵を作り出すことに講演する場を提供することを目的とする。

なお、日本学術会議は、科学と社会委員会科学力増進分科会及び科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する検討委員会と防災減災・災害復興に関する学術連携委員会が以下のシンポジウムを実施することにより、共催の機関とともにサイエンスアゴラの主催の一員となるが、サイエンスアゴラ全体の主催は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が担う。
8. 次 第：

（1）高校理科教育のありかたについて

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土）14：00～15：30

開催場所：日本科学未来館 7 階 会議室 3

定 員：50 名程度

<概 要>

日本学術会議が 2 月に公表した提言、また 6 月 4 日に東京大学で行った公開シンポジウムの内容をもとに、その提言を具体的に実現させるための方法を議論する。

<プログラム>

14：00～14：05 開会挨拶

須藤 靖^{*}（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科

物理学専攻教授）

14：05～14：15 高校現場における理科教育の現状と課題（仮）

宮嶋 敏（埼玉県立熊谷高校教員）

14：15～14：25 大学初年次における科学力と高大接続（仮）

真貝 寿明（大阪工業大学情報科学部情報システム学科教授）

14：25～14：35 現代社会を生き抜くために必要な科学（仮）

青野 由利（毎日新聞論説委員）

14：35～14：45 文科系にとっての科学の意味（仮）

戸田山 和久^{*}（日本学術会議第一部会員、名古屋大学大学院情報科学研究科教授）

14：45～15：25 ディスカッション

15：25～15：30 閉会挨拶

柴田 徳思^{*}（日本学術会議連携会員、日本アイソトープ協会専務理事）

（*印の講演者等は、科学と社会委員会科学力増進分科会委員）

（２）感染症へのチャレンジ

開催日時：平成 28 年 11 月 5 日（土）10：30～12：00

開催場所：日本科学未来館 7 階 未来館ホール

定 員：200～300 名（キーノートセッション）

<概 要>

エボラ出血熱、MERS、ジカ熱などの感染症、さらに、より大きな脅威となりうる薬剤耐性菌（抗生物質の効かない病原菌）に関する最新の知見と取り組みなどを考える。

<プログラム>

10：30～10：35 開会挨拶

澁澤 栄^{*}（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授）

- 10：35～10：50 感染症基礎研究の進展と防御における取り組み（仮）
甲斐 知恵子（日本学術会議第二部会員、東京大学医科学研究所感染症国際研究センター教授）
- 10：50～11：05 レギュラトリーサイエンスとしての感染症報道（仮）
 小田 光康（明治大学情報コミュニケーション学部専任准教授、明治大学感染症情報分析センターIDIA センター長）
- 11：05～11：20 人畜共通感染症の現状と課題（仮）
 水谷 哲也（東京農工大学大学院農学研究院教授・農学部附属国際家畜感染症防疫研究教育センターセンター長）
- 11：20～11：55 ディスカッション
- 11：55～12：00 閉会挨拶
須藤 靖^{*}（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

（*印の講演者等は、科学と社会委員会科学力増進分科会委員）

（3）災害とレジリエンスー平成 28 年熊本地震災害の教訓ー

開催日時：平成 28 年 11 月 6 日（日）10:30～12:00

開催場所：日本科学未来館 7 階 未来館ホール

定 員：200～300 名（キーノートセッション）

＜概 要＞

災害に対するレジリエンスは予測力、予防力、対応力で構成される。予測力を担う理学、予防力を担う都市計画、工学、対応力を担う社会科学のそれぞれの立場から、熊本地震災害の対応を踏まえ、建物や都市の強靱性を確立し、災害の応急対応・復旧・復興を确实・迅速に進めるために、科学・技術、学術が具体的にどのように役立つか、今後なすべき方向性はどこにあるかを、多くのステークホルダーと議論する。

＜プログラム＞

- 10:30～10:33 開会挨拶
和田 章^{*}（日本学術会議連携会員、東京工業大学名誉教授）
- 10:33～10:47 「予測力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：地震動
平田 直（日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授）
- 10:47～11:01 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：社会基盤
 本田 利器（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）
- 11:01～11:15 「予防力の観点から見た平成 28 年熊本地震：宅地住宅被害
 五十田 博（京都大学生存圏研究所教授）
- 11:15～11:29 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：応急対策

西村 博則（調整中）（益城町町長）

- 11:29～11:43 「対応力」の観点から見た平成 28 年熊本地震：生活再建
林 春男^{*}（日本学術会議連携会員、国立研究開発法人防災科学
技術研究所理事長）
- 11:43～11:57 防災減災・災害復興に関わる学術連携の重要性
米田 雅子^{*}（日本学術会議第三部会員、慶應義塾大学先導研究セ
ンター特任教授）
- 11:57～12:00 閉会挨拶
小池 俊雄^{*}（日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究
科
教授

（*印の講演者等は、科学技術を生かした防災・減災政策の国際的展開に関する
検討委員会委員または防災減災・災害復興に関する学術連携委員会委員）